



# 2017 年マラリアウイーク

ミャンマー：2017 年 12 月 4 日～8 日

マラリアウイーク

アジア開発銀行（ADB）地域マラリア信託基金会合

アジア太平洋マラリア排除ネットワーク（APMEN）年次会合

持続可能な保健資金調達（ADB、グローバルファンド、APLMA）

政府高官会合

宣言文～2030 年までに大メコン圏でマラリア排除を達成するための  
の行動喚起

## マラリアウイーク

2016年5月に初めてタイのバンコクで、アジア太平洋リーダーズ・マラリア・アライアンス (APLMA)、世界保健機関 (WHO)、グローバルファンドのアルテシニン耐性地域イニシアティブ (RAI)、アジア太平洋マラリア排除ネットワーク (APMEN)、GBCHealth、ラックスタイ財団が共同でマラリアウイークを開催しました。これは、様々なセクターからマラリアに関する主要なステークホルダーが集まって2030年の域内でのマラリア排除の目標達成に向けての協力を企画するための、前例にない機会となりました。

2016年のマラリアウイークの成功をふまえ、2017年のマラリアウイークがミャンマーのネピドーで2017年12月4日～8日に、ミャンマー保健・スポーツ省のリーダーシップのもと、WHO及びアジア開発銀行 (ADB)、APMEN、APLMAの支援で開催されました。

マラリアウイークの間中は、以下の全般的な目的のもと、様々な会合が行われました。

1. 域内で、リーダーがコミットしている2030年までのマラリア排除の目標支援の気運を継続する。
2. 排除目標に向けての各国の進捗を測ってまとめ、成功の要因及び課題を見出し、さらなる行動が必要な個所をハイライトする。
3. WHOグローバル技術戦略や大メコン圏におけるマラリア排除戦略に沿って、マラリアに対抗するための協力強化や好事例のハイライトを行う。
4. 新たな課題をとりあげるために、革新的な解決を支援するための協力を強化する。



## アジア開発銀行（ADB）地域マラリア信託基金会合：12月4日

この会合では、アジア開発銀行（ADB）のマラリアへの資金提メカニズムである「ADB 地域マラリア及び他の感染症信託基金（RMTF）」の成功例や、大メコン圏のマラリア排除のための資金提供への再コミットメントの必要性について協議が行われました。

2014 年以来 ADB はオーストラリアやカナダ、英国政府から 3000 万米ドル近くの支援を取り付け、マラリア排除の活動のために約 2 億米ドルの資金を確保しました。RMTF 資金提供の最初のラウンドが 2017 年末で終了するため、マラリアのための域内でのその他の資金獲得の機会についても話し合われました。

カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）のシュレッタ博士は、マラリアの資金調達にコミットした国には明確かつ大きな恩恵があったという、博士の最近の研究結果の概要を述べました。UCSF マラリア排除イニシアティブが開発した地域投資ケースによると、アジア太平洋地域でのマラリア排除は 2030 年までに達成可能だということです。この目標を達成するためにマラリアへの増加資金調達を伴うことで、900 億米ドル以上を節約して他の保健優先事項に投資することができるということです。また、増加資金により 40 万人以上の命を救える可能性があります。

移動する人々や移民人口という重要なテーマについては、バンコクの国際移住機関（IOM）の地域移住保健プログラム支援官によると、脆弱なグループへマラリア対処のアクセスを広げることを成功させるには次の 3 点がカギとなる、ということです。

- パートナiership：コミュニティ・リーダーや雇用者など主要なステークホルダーと最初から協力しながら活動する。
- 資源及び調達：地方政府やマラリア対策従事者のキャパシティを強化する。適切な物品調達を確実に行う。全ての資料を移民の言語に翻訳する。
- 想定してはいけない！：辺鄙な地域ではマラリアやインフラの基礎的知識は未だに必要である。文化的な感受性や地元の文脈を考慮する。

この会合では以下の発表が行われました。

- ADB：保健インパクト・アセスメント～大メコン圏におけるマラリア及び他の感染症の予防 ([リンク](#))
- Health GeoLab Collaborative：マラリア排除を支援する Geo-enabling 保健情報システム ([リンク](#))
- IOM アジア太平洋地域事務所：カンボジアとラオス、ミャンマーでの、移民及び移動

する人々及びその影響を受けているコミュニティのマラリアの課題をとりあげる ([リンク](#))

- デューク・NUS 医学校：ADB-CoRE 大メコン圏プロジェクト～国家医療規制機関のキャパシティ強化のためのアジア太平洋マラリア排除及び感染症対策 ([リンク](#))
- マヒドン・オックスフォード熱帯医学研究ユニット：大メコン圏におけるマラリア及びデングの危険マッピング及び対応計画 ([リンク](#))
- アジア太平洋地域の持続的資金調達の経済的エビデンス
- カリフォルニア大学サンフランシスコ校・マラリア排除イニシアティブ ([リンク](#))
- ADB ヘルスセクター・グループ地域マラリア及び他の感染症信託基金 (RMTF) ～マラリア排除に向けた保健システム強化アプローチ ([リンク](#))
- URC・ADB：マラリアサーベイランス及びラボの質確保プロジェクト～キャパシティ開発地域技術支援 ([リンク](#))

## アジア太平洋マラリア排除ネットワーク (APMEN) 年次会合：12月5日

APMEN のパートナーであるアジア大西洋地域の 18 か国や APMEN のワーキンググループ、国際機関やアカデミアの代表及び専門家が参加して、大メコン圏におけるベクターコントロールの課題や、各国でマラリアプログラムがどのように公共政策に影響を与えるか等に関し議論が行われました。参加者のほとんどが自国で日々マラリア対策に取り組んでいる中、このような域内での経験情報交換、そして好事例から学びあうことは、地方レベルでのマラリア対策を直接強化することに繋がることが期待されます。

以下の発表が行われました（パワーポイントのダウンロードは「リンク」から）。

- バイエル：APMEN パートナー機関申請 ([リンク](#))
- インテレクチュアル・ベンチャーズ：グローバルグッズ基金の紹介 ([リンク](#))
- 熱帯医学機関：医療人類学ユニット (MAU) の経験 ([リンク](#))
- タイ Kasetsart 大学：APMEN とのパートナーシップとしてのベクターコントロールプログラムの強化と昆虫学のキャパシティ構築 ([リンク](#))
- WHO WPRO：アジア大西洋地域のマラリア排除～課題に直面する国々への支援 ([リンク](#))
- APMEN/APLMA：APMEN の概要：([リンク](#))
- APMEN：アジア大西洋におけるマラリア排除～最後の 10 年に近づくにあつたての国々への支援 ([リンク](#))
- APMEN：2017 年 7 月のバンコクにおける APMEN ベクターコントロール・ワーキンググループ (VCWG) 会合の概要 ([リンク](#))
- APMEN：マラリア・ベクター・オブザーバトリー～ハマダラ蚊配列決定プロジェクト ([リンク](#))
- マレーシア保健省：ベクターコントロール・ワーキンググループ 2017～2019 年活動計画 ([リンク](#))
- オーストラリア熱帯保健医学機関：大メコン圏及びアジア大西洋におけるベクターコントロールと昆虫学的サーベイランス～概要 ([リンク](#))
- APMEN：三日熱マラリア原虫ワーキンググループ 2017-2019 年活動計画 ([リンク](#))
- APMEN サーベイランス及び対応ワーキンググループ (SRWG) ([リンク](#))
- グローバルヘルス科学機関：プログラムの効率性及び効果の向上によりマラリア排除を加速する ([リンク](#))
- APMEN：マラリア排除を支援するための閣僚向けアドボカシー ([リンク](#))
- グローバルヘルス科学機関：プログラムマネジメント及びリーダーシップの向上によりマラリア排除を加速する ([リンク](#))

## 持続可能な保健資金調達（ADB、グローバルファンド、APLMA 共催）：12月5日

マラリアウィークでの議論の重要なテーマのひとつは、各国がマラリア排除に向かって進展できるように新たな持続可能な資金源を見出すことでしたが、このセッションでは新たな資金パートナーシップの幕開けとして、グローバルファンドと ADB のパートナーシップに焦点が当てられました。

以下の発表に続き参加者は3つのグループに分かれて、1) 本パートナーシップにおける APLMA の役割、2) この新たな協力の包括フレームワークをどのように作成するか、3) 新たな共同資金提供メカニズムに対する各国の見方、について話し合いました。グループでの話し合いでは、域内の共同調達や異なった優先課題を持った機関間の協力、資金に関する協議における中央政府機関の重要な役割についてのアイデアも出されました。

- ADB 保健セクターグループ:保健及びマラリア・他の感染症脅威地域信託基金(RMTF) 運用計画 ([リンク](#))
- WHO 東南アジア地域事務所感染症課：アジア太平洋地域の保健資金調達 ([リンク](#))
- ADB：グローバルファンドとアジア開発銀行との MOU～強靱な保健システム構築による資金源の増加 ([リンク](#))
- グローバルファンド：HIV、結核、マラリア対策の効果と持続性の促進～グローバルファンドの 2017～22 年戦略 ([リンク](#))

### グローバルファンドとアジア開発銀行 (ADB) の新たな資金調達パートナーシップ

グローバルファンドと ADB は、グローバルファンドの資金支援を受けることができる ADB 加盟国に対し、国主導の 3 大感染症対策及び強靱な保健システムの構築を支援するための MOU に署名しました。グローバルファンドの資金援助から移行する国々において、ADB はその国が他の資金、特に自国資金の増加へ徐々にシフトしていくのを支援します。

グローバルファンドと ADB はマラリア・他の感染症脅威地域信託基金 (RMTF) を通じて 5 年間の協力を構築しています。また APLMA はマラリアに関しサプライチェーンや資金管理、プログラムの質の向上のためにグローバルファンドのパートナーと密接に協力しています。2017 年～20 年の間にグローバルファンドはアジア太平洋地域の国々に 20 億米ドル以上を配分しています。また、ADB の 2020 年戦略では、ADB の運用総額の 3～5%、即ち 2020 年までに 10 億ドルを保健セクターに投資することにコミットメントしています。

- プレゼン：グローバルファンドとアジア開発銀行 (ADB) の MOU ([リンク](#))

## 政府高官会合～地域のマラリア排除の進捗状況レビュー：12月6日

アジア大西洋地域 22 か国（保健省、外務省及び財務省）及び数々のパートナー団体の代表が出席し、当地域での 2030 年までのマラリア排除に向けての議論が行われました。ミャンマー政府の保健・スポーツ省事務次官は歓迎の挨拶で、ミャンマーのマラリアプログラムの成功をハイライトした一方、マラリア排除という野心的な目標を達成するためには、新たな資金源を探す必要があることに言及しました。マラリア排除の主要パートナーである WHO 東南アジア地域事務所感染症課のディレクターは、WHO のマラリア排除のビジョンとして、疾患の排除や感染症対策は保健分野だけでなく、マルチセクターとして取り組まなければ達成できないことを強調しました。

このセッションでは、各国やパートナーがマラリア排除に向けての進捗及び課題に関する以下の発表を行いました。

- WHO 西太平洋地域事務所：マラリアの排除～世界の概要 ([リンク](#))
- APLMA：2016 - 17 年年次報告 ([リンク](#))
- ラオス：国の経験～マラリア排除の国家の努力の団結 ([リンク](#))
- インドネシア：マラリア排除の地方レベルでのアドボカシー ([リンク](#))
- タイ：マラリア排除のための市民と軍の協力～国家のマラリア排除の努力の強化 ([リンク](#))
- マレーシア：危険にさらされている人々に到達するためのサーベイランス強化とヘルスセキュリティの支援 ([リンク](#))
- ミャンマー：国境付近のマラリアの課題取り組むための中国・ミャンマー間の協力 ([リンク](#))
- アフガニスタン：「適切」な物資を「適切」な人々に届ける ([リンク](#))
- カリフォルニア大学：効率を向上することによってマラリアの排除を加速する ([リンク](#))
- パプアニューギニア：マラリア排除を支援するための三者協力 ([リンク](#))
- スリランカ：ゼロマラリア達成のための持続的な過渡的資金確保のための国家戦略 ([リンク](#))
- インドネシア：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の文脈において疾病排除のための資金を優先する ([リンク](#))
- インド：マラリア排除デモンストレーションプロジェクト ([リンク](#))
- ユニットエイド (UNITAID)：革新への投資 ([リンク](#))

## 宣言文～2030年までに大メコン圏でマラリア排除を達成するための行動喚起：12月8日

(宣言文：<http://malariaweek.org/upload/day-5/GMS%20CFA%20Dec%208%20rev.pdf>)

この宣言文で、大メコン圏(GMS)のカンボジア、中国、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムの各国代表が、2030年までにGMSにおいてマラリアを排除するための行動を加速することを喚起しました。GMSでは特に薬剤耐性が深刻となっており、上述6か国はマラリア排除のために関係者の支援を受けながら早急な行動を調整して行うことの重要性を訴え、各国の保健大臣が「行動喚起」文書で以下の誓約を行いました。

- 当地域におけるマラリア排除のための全ての活動に対する資金が、特に国内資金調達を増加を含め、確実に集まるようにする。
- 国境を越えた協力を改善し、独立した監視機関を設ける。WHOがその事務局となる。
- 薬剤耐性型を含めたマラリア感染を把握して時宜を得た報告を行うためのシステムを強化する。
- マラリアの危険にさらされている全ての人に、可能な限り最善の予防、診断及びケアを提供する。それには、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの一環としての少数民族や移動する人々、移民への無料のサービスが含まれる。
- 入手可能な抗マラリア薬が確実に安全かつ効果的であるようにする。
- 全ての関連セクターを一堂に会し、政策を、期限を定めた結果志向の行動に転換する。
- 革新的なコミュニケーション手段を使ってマラリア排除にコミュニティを巻き込む。

